



西宮渡辺病院
西宮渡辺心臓・血管センター

2010.11.1

vol.51

発行元：西宮渡辺病院

〒662-0863 西宮市室川町10番22号
TEL:0798(74)2630 FAX:0798(74)7257

ホームページ <http://www.n-watanabe-hosp.jp/>

11月1日は本院『西宮渡辺病院』の開院記念日です。

社会医療法人 渡邊高記念会
理事長 佐々木 恭子



今年46周年を迎える私共の法人は現在、『西宮渡辺病院』と『西宮渡辺心臓・血管センター』、2つの急性期病院を中心に介護老人保健施設とデイケアを運営する『ハートケア西宮渡辺』、メディカルフィットネス『健康塾』、グループホーム『むろかわ』、居宅介護支援センター『むろかわ』、訪問看護ステーション『むろかわ』、を運営する複合組織へと発展しています。また、今年4月には兵庫県で初めての社会医療法人となりました。

皆様のご支援ご協力、心より御礼申し上げます。

私共を取り巻く地域環境や時代の変化は、求められる医療や医療環境の変化にも及び、医療にも常に時代に則した変化が求められる時代を迎えています。

本院『西宮渡辺病院』では、昨年「西宮人工関節センター」設立に続き、今年は「回復期リハビリテーション病棟」と「化学療法センター」を開設しました。

『西宮渡辺心臓・血管センター』では今年10月に、血管治療の最先端の設備といわれるハイブリッド手術室の設置、今年開設した「睡眠時無呼吸外来」や「禁煙外来」に続き、様々な血

栓症や動脈硬化等、血管病変の早期発見と早期治療に役立つ「血管エコー外来」を設置しました。

病院医療の運営には常に進歩と変革が求められますが、同時に求められる「医療の心、良心」は普遍であり、私共は常に心かよう医療の提供に努めなくてはなりません。

私共法人の原点は昭和40年11月1日、70床の急性期病院としてこの地に産声をあげた本院『西宮渡辺病院』にあります。創設者の地域医療への思いと私共法人の原点もまたこの本院創立のこの日にあります。

幼い頃、私の父である名誉理事長が、食事中であろうと、入浴中であろうと、電話一本で直ちに全てを中断し病院に駆け付けていた姿はやはり私共法人の原点であり、法人のどの組織にも、いかなる時代の変遷に対しても、未来永劫受け継がれなくてはならない『医療人の心』であると確信しています。

「医療は患者様のために、地域のために、地域医療の未来のために」との願いをこめて。

私共の次の一歩の前進に、どうかご支援ご協力の程よろしくお願い致します。

吉川純一最高顧問、院長着任へ

今年7月より西宮渡辺心臓・血管センターには最高顧問としてお世話になっていましたが、理事長・副理事長、名誉理事長の強いおすすめがあり、10月から院長に就任することになりました。私が信頼している高岡顧問からも同様のおすすめがありました。大学病院の病院長として2年、大阪掖済会病院の院長として5年勤めてまいりましたので、この種の業務の阪神地区で最も信頼される心臓病診療・研究のメッカとして育てていく所存です。どうかよろしくお願ひします。



なお、この4月から放送大学の客員教授を務めており、来年の4月から本センター発の心臓病学全般の講義が全国に発信されます。各種の心臓病を分かりやすく解説しており、御勉強いただければ幸いです。

医師着任紹介

西宮渡辺心臓・血管センター
循環器内科
藤原 俊樹 医師



10月1日より西宮渡辺心臓・血管センターに着任いたしました藤原俊樹と申します。カテーテル治療を中心とした循環器診療をお手伝いするべく参上いたしました。もちろん適切な診断に必要な検査や救急診療などにも精進する所存でございます。また他分野の病を合併した患者様や社会背景に問題をお持ちの患者様も多くいらっしゃいます。そのような患者様に対しても患者様中心の全人的な診療を心がけたいと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。

西宮渡辺心臓・血管センターで新しい外来が始まります

血管エコー外来

昨今、閉塞性動脈硬化症(ASO)、頸動脈狭窄などの動脈硬化性疾患や、深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、血栓性静脈炎などの静脈疾患の診断、マネージメントに血管エコーが欠かせません。

そこで、当院では9月より専門医・技師による血管エコーの専門枠を設けることになりました。地域の先生方にも是非この枠をご活用いただきたいと思ひご案内させていただきます。

検査日 毎週金曜日 午後

検査の種類 頸動脈エコー・腹部腎動脈エコー
下肢動脈エコー・下肢静脈エコー
※あわせて心エコーの予約も承ります

予約方法 電話(0798-36-1880)にて受付
※患者様のお名前・生年月日・検査希望日・検査項目を伺います

メディカルコース

健康塾では、福井達雄医師を中心に、診察・検査・指導(栄養・運動)のチームアプローチによる予防・指導重視型コースを設置しました。

ドクターによる定期的メディカルチェックに加え、専門スタッフによる各指導により、健康維持・予防・改善を目指します。以下の項目に当てはまる方は、お気軽にお問い合わせください。

スクリーニング	
BMI (体重kg÷身長m×身長m)	25 以上
安静時血圧	130/85 以上
赤血球	男性:410 以下 / 女性:380 以下
ヘモグロビン	男性:12 以下 / 女性:11 以下
空腹時血糖値	100 以上
HbA1c	5.2 以上
TG	140 以上
HDL	40 以下
クレアチニン	1.0 以上
尿酸	7.0 以上
AST(GOT)	37 以上
ALT(GPT)	39 以上
γ-GTP	男性:84 以上 / 女性:48 以上

お問い合わせ先 : 健康塾 (0798-36-1166) 担当 石田

兵庫県初！！

ハイブリッド型手術室導入

前号でもお伝えしましたが、本年10月、西宮渡辺心臓・血管センターではカテーテルを使う内科的治療と外科手術が一つの部屋でできる『ハイブリッド型手術室』を導入致しました。

ハイブリッド手術対応血管撮影装置『Artis zee TA』(ドイツ・シーメンス社製)の導入は兵庫県では初めてであり、3次元CT撮影もできる装置が完備され、高度な心臓手術などに活用できます。

この血管撮影装置は、従来の血管内に細い管(カテーテル)を挿入して診断・治療をするのみならず、今まではCTでしか得ることのできなかった断層画像や3D画像の撮影も可能になり、複雑な血管の走行も短時間で確実に把握できるようになります。そのことにより、医師が画像を確認しながら術中に治療を修正することも容易になりますので、より迅速で確実な治療が可能になります。なお、治療に役立つ多くの機能を持った本装置は、検査を受ける方の放射線被曝低減も十分に考慮したシステムですので、安心して検査・治療を受けていただけます。



西宮渡辺心臓・血管センター

PACSとは

西宮渡辺病院、西宮渡辺心臓・血管センターともに、PACSシステムを導入し10月より本格的に稼働し始めました。

PACSとは、**医療用画像保存通信システム**(Picture Archiving and Communication Systems)の略です。PACSは、CT、MRI、アンギオ、レントゲン、内視鏡、超音波などの各装置から医療用画像データをDICOM画像(Digital Imaging and Communication in Medicine の略)という共通規格を通じて連携を図り一元管理するシステムです。このPACSで管理している画像データを医局・診察室・病棟などPACSの端末があるパソコンを利用して画像データをネットワークでやりとりすることができ業務効率を向上させることができます。



PACSのメリットは以下があげられます。

- ・ **待ち時間の短縮** … フィルムレスによりフィルムの現像・運搬などの時間が不要となり、また、撮影と同時に各科での照会が可能であるため、フィルムを待つ時間が大幅に短縮されます。
- ・ **画像の参照がより便利に** … PACSはデジタル化された画像であるため、非常にきれいで鮮明であるのはもちろん、画像の拡大及び補正を通してより正確かつ効率的に参照することが可能です。
- ・ **病診、病院連携が容易に** … PACSには遠隔機能も選択できるため、CDにて他院でも参照することが可能あり、将来的にはインターネット環境を通じて地域医療機関においても閲覧可能となります。

病院内、地域の開業医と情報を共有し、患者様を中心としたより質の高い医療の提供に努めてまいります。

放射線科 技師長 和氣 利充

奇跡の生還。其の五（前編）

西宮渡辺病院 院長 蓮池 康德

気になっていた症例であった。どうしておられるのだろうか。いやもう、もはやだめになってしまったのか。僕の専門である肝胆膵の患者さんは明日をも知れぬ人で、今日を精一杯頑張っておられる方ばかりなので、明日の心配などしてられないのである。

何年も前のこと、以前、僕と一緒に肝胆膵の患者をみていた内科の先生からの紹介であったと思う。巨大な尾状葉の肝細胞癌、しかも、其の周りを食道静脈瘤が取り囲んでいた。おまけに巨大化した脾臓があり、白血球が1000台。血小板も3万程度だったと思う。さる大学に行かれ、移植の適応になったら手術するといわれ断られる。また、公立の大病院に行かれ、そこでも手術をしたところでintervensionalな治療と比較しても予後の改善は得られないだろうと断られる。本人は取ってほしい一念で私のところに来られた。一度は断ったものの、取れる可能性があるといったのは僕だけだったらいい。本人はその数週間後、また来院され、手術してほしいとせまった。どのみち、死ぬんだから、手術時に死んでも後悔はしませんよと。僕より年下であり助けたいが、どんな手術でも絶対大丈夫の保障はない。ましてや、ひとつ

間違えただけで死ぬ確率の高い危険な手術。このまま塞栓術を繰り返せば、延命はできるかもしれない。しかし、彼は必要に食いが下がった。生殺しいやだと。とうとう、彼に説き伏せられてしまった。

手術は当然腫瘍摘出術に近い状態。白血球がどう災いするか解らないので、術前あらかじめ白血球を増加させる薬を投与した。尾状葉枝を切って肝切除に向かうところで出血が止まりにくくなっていた。静脈瘤をいためればそれだけで手術は中止となる。血小板を術中に測定したところ1万をきっていた。あらかじめ頼んであった血小板がまだ来ない。肝切除を中断して30分ほど待たせようか。やっと到着した血小板を投与しながら、一気に肝切除を施行。出血は止まってくれた。術後は順調で3週間を待たずに帰られた。

この症例はその後も手術をするべきか、しないで他の治療を模索するか議論された。僕も彼の熱意におかれて、手術はしたものの、内心正しいことをしたかどうかを悩む日々であった。要は、このようなことが徒労で終わったのではないかと、自問自答である。その、本人が4-5年ぶりに、僕の目の前に現われたのである。

『学んで治そう！健康セミナー』の様子が

地域情報誌“宮っ子”に掲載されました



去る6月16日に安井市民館にて行った『学んで治そう！健康セミナー』の一部模様が、西宮市民の情報誌“宮っ子”9・10月号に掲載されました。

当法人は、地域住民の方々に各公民館等よりご依頼いただき出張講座を開催しております。内容もご要望に応じて決定致しますので、ご希望の際は下記にご一報下さい。

お問い合わせ先：健康塾（0798-36-1166）担当 石田

むろかわNewsに対する皆様よりのご意見・ご感想をお待ちしております。

※ 当院各階詰所・1F出入口に設置しております「ご意見箱」をご利用ください。

編集
広報委員会